

第5回 鬼怒川・小貝川上流域大規模氾濫に関する減災対策協議会
議事概要

1. 日 時：令和元年6月6日（木）14：00～15：30

2. 場 所：宇都宮市清原地区市民センターホール2

3. 出席者：協議会構成員

国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所長 青山 貞雄

国土交通省関東地方整備局 鬼怒川ダム統合管理事務所長 丸山 日登志

気象庁 宇都宮地方気象台長 本多 誠一郎

気象庁 水戸地方気象台長 大友 猛

国土地理院 関東地方測量部長 乙井 康成

栃木県知事 福田 富一

（代理：危機管理課長補佐 荒巻 利光、防災対策班長 小野 和憲）

宇都宮市長 佐藤 栄一（代理：危機管理監 小関 裕之）

小山市長 大久保 寿夫（代理：危機管理課長 永山 武志）

真岡市長 石坂 真一（代理：市民生活課主査 圓橋 理）

矢板市長 齋藤 淳一郎（代理：市民生活部長 兼 危機管理監 小野寺 良夫）

さくら市長 花塚 隆志（欠席）

下野市長 広瀬 寿雄（代理：安全安心課 副主幹 岡村 康行）

上三川町長 広瀬 寿雄（代理：総務課長 石崎 薫）

益子町長 大塚 朋之（代理：総務課長 高濱 文夫）

芳賀町長 見目 匡（代理：総務課地域安全対策係長 大峯 俊幸）

塩谷町長 見形 和久（欠席）

高根沢町長 加藤 公博（代理：地域安全課係長 五月女 昌寛）

4. 議 題

（1）幹事会の報告について

（2）取組方針の見直しについて

（3）鬼怒川・小貝川上流域 H30 年度の取組及び今後の取組について

5. 議事概要

（1）幹事会の報告について

・第4回協議会以降の2回の幹事会について報告し、確認した。

（2）取組方針の見直しについて

- ・「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく鬼怒川・小貝川上流域の減災に係る取組方針（改定案）を確認し、了解を得た。

(3) 鬼怒川・小貝川上流域 H30 年度の取組及び今後の取組について

- ・「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく鬼怒川・小貝川上流域の減災に係る取組方針【平成 30 年度の進捗状況】について報告し、確認した。

【主な発言】

全般

- ・この減災対策協議会は、大規模な氾濫に対してできるだけ被害を減らすために進めている。
- ・昨年度も非常に大きな水害が発生している。減災への取組について、このような場で情報共有して進めていくことは非常に大事なことであり、ここで共有されたことは前向きに取り組んで欲しい。

ハード対策

○護岸整備等

- ・宇都宮市石井町地区で堤防の低水護岸の整備を完了した。

○避難行動に資する基盤等の整備

- ・CCTV カメラ映像の配信、ウォーターフェンスの配備、59 か所での簡易水位計の設置を行った。
- ・情報通信の強化として、これまで防災行政無線が合併前の上河内町のエリアしかなかったため、緊急告知機能付き防災ラジオの運用を今年度 6 月から開始する。
- ・情報伝達の手段として、コミュニティ FM を活用し、災害時には緊急割り込み放送を行う。割り込み放送を受信できる防災ラジオを自主防災組織の会長、自治会長、行政委員、児童委員、視覚障がい者に無償貸与した。市内で購入された方について費用の 75% の補助をしている。
- ・来年度、新しい庁舎ができるので、防災ラジオの導入を検討している。
- ・今年度 12 月に開局予定のコミュニティ FM の開局にあわせて、緊急告知機能がある防災ラジオの配布（高齢者は無料、その他は補助）を予定している。
- ・消防庁から救助資材車の提供を受けている。
- ・消防団員の情報伝達に用いる IP 無線を導入した。
- ・小中一貫教育で同一敷地となった東小学校と北高根沢中学校を地区内の住民が避難する拠点避難所とし、敷地内に防災倉庫を設置した。
- ・防災無線のデジタル化を今年度から 2 か年計画で実施していく。

ソフト対策

○広域避難

- ・1自治体だけでは避難体制が困難であるため、災害広域支援連携協定を、隣接する4市1町で締結した。この連携協定に基づく水防訓練を実施し、他自治体に避難する訓練を実施した。

○洪水ハザードマップ

- ・鬼怒川・小貝川の氾濫シミュレーションの公表、ハザードマップポータルサイトを活用した周知サポートを実施した。
- ・平成28年に作成した防災ガイドブックの更新と市内全戸配布を予定している。
- ・今年度はハザードマップの更新を予定している。
- ・ハザードマップ・防災ガイドブックを作成し、配布した。
- ・ハザードマップの拡大版を作成した。

○避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成

- ・平成29年度から大雨警報・洪水警報の危険度分布の提供を進めている。危険度分布のさらなる活用に向けて、自治体や防災リーダーを対象に、メールやアプリを用いて、プッシュ型でお伝えする予定である。

○防災教育と水防活動

- ・プッシュ型の洪水予報等の発信、水位計・ライブカメラの情報を下館河川事務所のHPで提供している。
- ・ハザードマップやマイ・タイムラインを活用した防災教育を実施し、小中学校の生徒や教職員を対象とした取組を進める。
- ・消防団・水防団と連携した水防訓練を実施した。その際に、幹部によるMCA無線の操作訓練、重要箇所での点検を行った。
- ・本郷小学校5・6年生に出前講座を実施した。
- ・防災訓練の中で、土嚢を作成し、簡易担架で運ぶというレクリエーションを盛り込んだ訓練を行った。
- ・防災教育や知識の普及として、出前講座を実施した。
- ・小学校において防災に関する課外授業を行った。
- ・自主防災会と連携して防災訓練を実施した。今年度も自主防災組織との合同による防災訓練を引き続き実施する。
- ・小中学校を対象とした河川水難事故防止の出前講座を実施した。
- ・自主防災組織リーダー育成研修会を3回実施した。

○共助の仕組み強化のための取組

- ・地域包括支援センター・ケアマネージャーと連携した水害からの高齢者の避難行動の理解促進に向けた取組を実施する。

○災害を我がことと考えるための取組

- ・住民への防災知識を普及するために、道の駅うつのみやろまんちっく村でお天気キャスターを招いたマイ・タイムライン作成講座を実施した。
- ・庁舎のロビーを利用した水防パネル展を実施した。
- ・地域リーダーの育成として、防災士の取得費用の助成制度を設けた。
- ・教育委員会・学校関係者と協力し、町内すべての小学 5 年生・中学 2 年生を対象に、マイ・タイムラインの作成講座を開催予定である。
- ・平時の活動として、地域防災リーダーの育成等の協力を進めている。
- ・引き続き、自主防災組織リーダー育成研修会を実施する予定である。また、水防災意識強化週間における集中的な水防災に関する普及・啓発活動を実施する。
- ・地理院地図を構築・公開しており、情報の追加更新とあわせて、標高を表す機能を追加している。これらの機能をマイ・タイムライン作成時に使えるよう、使い方をまとめた資料を作成した。

○より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

- ・栃木県測量設計業協会とドローンによる情報収集について災害時応援協定を結んだ。
- ・災害情報の伝達体制について課題があったため、地区連合会や自主防災会の会長へのお願ひし、地区の連絡窓口となる方・地区内の連絡網を見直してもらった。
- ・重要水防箇所の共同点検、自治会の自主防災組織による土嚢作成の訓練を実施した。
- ・災害発生時のドローンによる情報収集協定を締結した 3 社が訓練に参加した。訓練では、新たに給水訓練・段ボールベット等の作成訓練を実施した。

○その他

- ・災害の歴史を後世に綱得る災害碑に関する取組みを進めるため、市町に自然災害伝承碑が建立されていたら、登録にご協力いただきたい。
- ・5 月 27 日に本減対協の「鬼怒川・小貝川におけるマイ・タイムライン検討取組」が全建賞で表彰された。

以上。